

学会の発表プログラム作成に関する一考察

次郎丸 沢

株式会社カンファレンスサービス

キーワード：学会 発表プログラム

1 はじめに

各学会では学会発表の際に、発表申込締切後に発表プログラムを作成する。多くの学会では Excel を使用しているが、Excel を使用すると大会プログラムのリリースや予稿集編集との連携を密に取ることが難しく、学会運営上において人的コストを抑えることが難しい一因となっている。

そこで本稿では現在の発表プログラム作成に関する現状を調べ、解決法を探る。

2 発表プログラム作成

2.1 使用ソフト

筆者が担当した学会の内、使用ソフトを確認できた 51 のケースのうち 50 のケースで Excel を使用しており、1 件は Easy chair Professional を使用していた。なお、51 のケースの参加者は最大で 500 名であり、Excel を利用している 50 のケースの中には各発表をカード式の紙媒体に印刷して Excel でのプログラム編成が正しいかどうかを確認するために併用した事例を 1 件確認した。

2.2 Excel を使用するメリット

なぜ Excel を使用するのかについて、3 名の担当者にインタビューを行ったところ、①複雑なスクリーミングが比較的楽に出来る②参加国や参加構成など複雑な条件を加味しながらある程度アナログで編成したい③Excel で作成したものをそのまま印刷物として利用する④代替案が無い、等の意見が出た。

2.3 Web アプリの使用頻度が低い理由

Easy chair Professional 等、Web 上でプログラムを作成する方法もあるが、2.1.の調査結果より少なくとも中小規模の学会に普及しているとは言えない。その理由についても 3 名の担当者にインタビ

ューを行ったところ、①複雑なスクリーミングが出来ない②並列会場の数が途中で変わるなど、イレギュラな対応が Web アプリでは難しい③存在を知らなかった、等の回答があった。

3 Web アプリによる解決法

Web アプリには 2.3 で挙げたような問題があるものの、Excel ではコピーミスなどのヒューマンエラーを完全に排除することが難しい。そこで筆者が考える Web アプリによる解決法を発表時に提案する。

4 おわりに

学会には前例を踏襲し、継続性を重視する傾向がある[1]。その部分をいかに乗り越えるかについては今後の課題である。

参考文献

- [1] 宮田洋輔, et al. 研究集会における学会発表の形式とアクセス. 日本図書館情報学会誌, 2017, 63.2: 109-118.